

北区に「浮間（うきま）」という地名（大字名）があります。私は所属する研究所の出張で、よく浮間に行きます。「浮間中学校」「西浮間小学校」などの理科の授業にお邪魔しました。この美しい地名の由来を知りたくて、少し調べてみました。

地名には必ず「由来」があり、多くの場合地形や地勢が影響しています。私は浮間地区の地図を眺めていて、まず「浮間公園の池」が気になりました。何か不自然な南北の長方形なのです。人工的な池なら、むしろもっと円形にするでしょう。私は勘で、これは「河跡湖」だと思いました。近くには新河岸川（しんがしがわ）と荒川があります。「太さ」から見て「荒川の蛇行跡」だと思ったのです。

こういう時に役立つのが、古い航空写真です。私はさっそく国土地理院の1945年頃の航空写真を見てみました。果たして、浮間公園は荒川の旧河道（蛇行）の一部とわかりました。現在の新河岸川も、荒川の蛇行南端部をつなぐように利用しているということもよくわかります。

浮間地区も、荒川の大きな蛇行に囲まれた土地だともはっきりと読み取れます。「浮間」という地名も「荒川から飛び出した浮島」のように見えることからついたそうです。地形と地名の謎が、また一つ解けました。

（上；現在の地形図／下；地形図と同じ領域の1945年頃の航空写真／いずれも国土地理院）

